

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4191200015
法人名	有限会社 ユーライフ
事業所名	グループホーム きらら
訪問調査日	平成 19 年 7 月 29日
評価確定日	平成 19 年 8 月 2 日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4191200015		
法人名	有限会社 ユーライフ		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町原古賀7470番地3 (電話)0942-94-9222		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成19年7月29日	評価確定日	

【情報提供票より】( 19年 7月 11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 800 円				

### (4) 利用者の概要( 7月 12日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 85.75 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	独立行政法人 国立東佐賀病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一面にあり、地域住民との関係を十分に採れる環境に設置されている事業所である。管理者は長年認知症介護に従事しており、経験豊かで、認知症ケアに関する知識や技術も十分に持っており、自分が目指す認知症ケアの実践に邁進している姿勢を持っている。2ユニットであるが、現在は1ユニットのみ稼働しており、入居者がゆったりとした環境の中で自分らしい暮らしを紡いでいる姿がかいま見れる。地域とも十分に連携しており、家族の訪問も頻回にあり、入居者も外泊をしたりと、生活の継続性も感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての評価であるため、前回との比較はできない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各職員がそれぞれ自己評価に取り組み、ケアの質や運営についての課題を理解し改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議も定期的実施し、認知症について、認知症ケアについて、地域密着型サービスとしてのグループホームのあり方等、地域密着型サービスについての理解を深めるような取り組みを実施している。区長などの理解も深まり、回覧板を回してもらったり、地域の行事に参加したり、地域の畑を借り野菜作りをしたりしている。運営推進会議の議事録を市町村担当者に持参したりして、市町村への理解・協力を求めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関の見やすいところに意見箱を設置し、気軽に意見を言っていたりするような配慮している。玄関には職員の顔写真を掲示し、どの職員が担当か、どの職員の言動が家族に理解できるような工夫も行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に参加し、日々の散歩の際には声を掛けてもらったり、散歩の誘いを受けたりしている。地域の方々にホームを理解していただき、地域とのつながりを持つことができるよう配慮している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義と役割を職員にも説明し、その中で理念の見直しを職員と協議しながら行い、独自の覚えやすい理念を創り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常日頃よりケアのあり方について職員には話しをし、理念を共有し、実践するよう努めている。特に、日々の日課を決めることなく、個々人のニーズに合わせたケアができるような姿勢を持ち、業務に追われることがないよう日々振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、区長さん達とも交流を密にしている。近所の方から散歩に誘って頂いたり、ホームの花見やお茶会には近所の方を誘ったりしている。回覧板も地域の一員として回してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員がまず自己評価を行い、最終的に運営者がチェックをしている。このことにより、個々の職員が、ホームのケアの質や運営についての課題を明確に理解し、評価を活かしての改善に取り組むことができている。		
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度は運営推進会議を実施し、認知症についてやグループホームについての理解を深めていただけるよう努めている。また年度末には年間の利用者状況・行事实施の報告、年度初めには事業計画・防災や事故についての協力をお願いなどを含め、話し合いを行っている。地域から協力していただけるような状況を創り出し、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会の議事録を持参したり、窓口パンフレットを置いて頂いたりして、事業所の実情や取り組みを折に触れて伝え、関係づくりに努めている。しかし、市町村担当者からのアプローチは少ない状況にある。	○	市町担当者とともに課題解決を図っていく取り組みは大切であり、なお一層市町との関係づくりを積極的に行い協働関係が継続されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告については、定期的には毎月、請求書送付時に、担当職員が写真・新聞(便り)・日常の様子などを記載したものを同封している。家族の来訪時にも話しをし、家族からの要望や、気づきをうかがうようにしている。特に変わったことがあった場合は、電話でその都度報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の目に付きやすい所に意見箱を設置し、相談苦情窓口の案内を表示し、いつでも気兼ねなく意見をいただけるような配慮をしている。家族会の折りにも意見をいただくようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は契約職員の雇用期間満了時のみであり、開設当初からの職員が多く、馴染みの関係の下でのケアの提供がなされている。家族へも職員の把握をしていただけるよう、玄関に職員の顔写真を掲示している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自らが年間研修計画を立て、それに沿って、研修を行うようにしている。また、系列の外部研修会にも定期的に参加したり、管理者が定期的に職員研修を実施したりして、質の向上に努めている。評価シートを活用し、技術の向上も図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流研修会の機会を設け、他事業所の良いところを学び、ケアサービスの質の向上に反映している。研修終了時には、報告会を行い、全職員が共有できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	時間をかけてでも、納得していただけるよう、見学や体験入居などを繰り返し行っている。必要があれば家庭訪問もしている。家族と相談しながら、馴染みの関係をつくっていくように努めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で喜怒哀楽を共にし、関係性を紡いでいくように努めている。朝の食事の準備や小ネギの根の植え替えなどを手伝っていただき、支え合う関係がある。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方と相談しながら、行きたいところを決めたり、日々の過ごし方の意向の把握に努めている。職員間で情報を共有し、かつ個別に対応できるような体制づくりもしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアのあり方について本人・家族・その他の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。1ヶ月に1度評価をし、見直しをしている。家族へはその都度了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月サービスの実施状況、本人や家族の満足度、目標の達成状況、新たな問題の発生、介護計画の修正の可否についてのモニタリングを定期的に行い、必要時には本人・家族・関係者と話し合い、現状に即した介護計画の修正を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて買い物・行楽などの外出支援や、看護師による24時間の緊急時の相談体制の整備をしている。緊急時には地域の委員との連携もとれるようにしている。また、希望に応じて外泊や外出など自宅とホームとの行き来ができるよう支援している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則は入居前のかかりつけ医への受診継続であるが、本人・家族の希望でかかりつけ医の変更があった場合には適切な治療ができるようホームの看護師を中心とした支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合のターミナルケアの看取り指針について説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて規定し、勉強会の機会を設け、守秘義務の徹底に努めている。便りへの写真掲載などについては家族の了承を得ている。プライバシーの保護については、自身の言葉掛けや対応の仕方など職員同士で確認し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々人の体調や状態・気分等を配慮しながら、本人の自発的な意向を引き出し尊重するような支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを決めたり、配膳準備・食事の後かたづけなど共に行っている。毎日の献立を書き出すことで、食事の話題に触れ楽しみとなるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は毎日入浴できるように配慮している。見守りや介助は要所要所で行い、一人ひとりがゆっくり入っていただくよう配慮している。寝る前に入りたいという要望にも応えるよう努めている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみ事を自らが見つけることが支援を行っている。日めくりカレンダーをはいだり、手作りカレンダーの曜日や日にちの取り替え、草取り洗濯物干しや取り込み等それぞれできることをしていただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩は日常的に行われている。社用車を保持し、臨機応変に対応できるようにしている。遠出の希望や急な買い物の希望などには、職員配置等の問題もあり対応できかねることもある。	○	急な要望にも応えうる体制づくりに期待したい。他事業所にはない、「きらら」しかできないことを創り上げていきたいとの意欲があり、一層の充実に期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締まり、ブラインドをおろすなどは入居者が行っており、夜間以外の施錠は実施していない。玄関には離設の危機に対応できるようセンサーの設置を行っている。玄関を出る入居者がいた場合は、入居者同士で対応する場面もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回実施している。内1回は消防署の協力の下、夜間想定で実施することを計画している。	○	隣接している他事業所と連携し、災害時には相互に協力できる体制を整備していくような検討もなされている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月定期的に管理栄養士に、献立をチェックしてもらい、栄養バランスに配慮している。水分摂取や栄養チェックを欠かさず行っている。個々人の状況に応じた量や食事形態の提供を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾り付けをしたり、四季の変化を感じていただけるような設えの工夫がなされている。室内には優しい自然光が入るよう、また閉塞感を感じないよう、心地よく過ごせるような工夫が随所になされている。それぞれが自分の好みに応じた過ごし方ができるような共用空間の造りである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れたものや好みの身の回り品の持ち込みについて説明し、できるだけ持ち込んでいただくよう進めている。個々の居室は、使い慣れた物や家族の写真などで、個性溢れた設えとなっており、思い思いに心地よく過ごせる空間となっている。		